

海外安全対策情報
(2022年4月～6月分)

在フィリピン日本国大使館

1 治安情勢

- (1) フィリピン各地における新型コロナウイルス感染症の流行状況は、現在鎮静化しているように見えるが、新たな変異種が流行する可能性もあり、引き続き厳重な感染防止対策が必要である。
- (2) 入国規制が緩和された事により観光目的で短期滞在する者が増加したが、マニラ市内の繁華街で邦人が信号待ちをしている際に、バイク乗車の2人組にバッグや携帯電話をひったくられる事例など、各種犯罪被害例が相当数寄せられていることから、周囲に常に目を配り、注意する必要がある。

2 一般犯罪の傾向

別途ホームページ等で注意喚起を行っているが、短期滞在者の増加により、集団スリ、ひったくり、置き引き被害が多発している。常に周囲に目を配り、不審な者にはついていかない、不審な物には近づかないといった心構えが肝要であり、旅券等貴重品は特に肌身離さず常時携帯するのはもちろんの事、常にバッグ等から目を離さない事を心がけ、席から離れる際は必ず持ち歩く等、二重三重に注意する必要がある。

3 テロ・爆弾事件発生状況

邦人を被害者とする事件の発生は認められないが、安全対策には引き続き十分注意する必要がある。

4 日本企業の安全に関する諸問題

当地においては、一般的に企業及び個人に対する恐喝、脅迫、誘拐等が生じるおそれがあること、過去に日系企業（社員）や関連企業（現地法人）に対する脅迫事件も報告されたこと等を踏まえ、進出日系企業関係者は、企業及び社員の安全に関し注意する必要がある。

また新人民軍（NPA）は、地方に展開する民間企業に対して、「環境破壊」、「住民搾取」等を口実として「革命税」を要求し、企業側が応じない場合には、脅迫、恐喝、襲撃（主に農園等の各種機材破壊）等を行っていることから、現地採用職員の動向も含め、日頃から情報収集を行うなど十分な注意が必要である。またミンダナオ地域の中部以西では、アブ・サヤフ・グループ等イスラム系武装勢力の動向に細心の注意を要する。

5 その他

新型コロナウイルス感染症の感染予防に万全を期すとともに、コミュニティ隔離措置、感染状況、医療事情、入国・帰国規制等は常時変化していることから同最新情報の入手に日頃から留意する必要がある。